平成２４年度
新宿区協働事業評価報告書

（協働事業提案実施事業）

新宿区協働支援会議

「平成２４年度 新宿区協働事業評価報告書」

＊目 次＊

新宿区協働提案による実施事業の評価を終えて・・・・・・・・・・・・・2

1　協働事業評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

2　評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

3　評価の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

4　評価の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

5　協働事業評価実施事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

協働事業の評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（1）赤ちゃん木育広場事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（2）家庭訪問型子育てボランティア推進事業・・・・・・・・・・・・・21
（3）新宿アートプロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
（4）街角スポット活用事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

【参考資料】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
1　協働事業事前確認書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
2　協働事業自己点検シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
3　協働事業相互検証シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

平成２５年２月６日

新宿区長　　中　山　　弘　子　様

平成２４年度実施の協働事業提案制度による４つの協働事業について
次のとおり評価しましたので、報告します。

新宿区協働支援会議　座長　　久　塚　　純　一

協働支援会議委員

	委員の区分	氏　　名	職　　名
1	学識経験者	座　長 久 塚　純 一	早稲田大学社会科学総合学術院教授
2	非営利活動団体構成員	座長代行 宇都木　法男	特定非営利活動法人 ＮＰＯ事業サポートセンター理事
3		関 口　宏 聡	特定非営利活動法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会　常務理事
4	区　　民	竹 内　洋 一	公　募　区　民
5		野　口　　博	公　募　区　民
6		太 田　節 子	公　募　区　民
7	区内事業所の社会貢献部門経験者	伊 藤　清 和	元　富士ゼロックス東京（株） ＣＳＲ部社会貢献推進グループ
8	新宿区社会福祉協議会職員	村　山　　昇	新宿区社会福祉協議会事務局次長

新宿区協働提案事業の評価を終えて

新宿区協働支援会議では平成１８年３月に「協働事業提案制度の導入について」・「協働事業評価制度の導入について」の２つの報告書を取りまとめ、新宿区長に提出しました。協働事業提案制度は、この報告を受け、平成１８年度から導入されたものです。

新宿区は、基本構想・総合計画でめざすまちの姿として「『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」を掲げ、まちづくりの６つの基本目標の一つとして、「区民が自治の主役として、考え、行動していけるまち」、また、区政運営の６つの基本姿勢として、「区民起点の区政運営」・「地域力を高める区政運営」・「参画と協働を基本に区民の知恵と力を活かす区政運営」等を計画に定めています。協働事業提案制度は、こうしたまちづくりの基本目標等を達成するための具体的な取組みの一つであり、基本構想に掲げる「新宿力」を形づくる一つの手法として「地域の力」と「多様性」を活かす仕組みとなるものです。

協働事業提案制度が推進されることで、多様な主体が担い手となり地域を支える「よりよい地域社会」が形成されると考えます。また、区民が様々な分野で参画する地域社会づくりを進めていくためには、「ＮＰＯ等と区が実施する協働事業によって地域社会にどのような変化が顕れるのか」、「区民の生活の課題がどのように解決されていくのか」を区民に示していくことが必要です。さらに、事業の計画段階から効果測定に至るまで、それぞれのステージで客観的に評価を行い、事業実施に反映し、改善に繋げていくことが大切です。

新宿区という独自性あふれた空間がさらに魅力的なものとなり、多くの都市にとっての一つのモデルとなるには、新しい公共性の形成と構築が求められます。そのためには、常に、協働の原点に立ち返り、徹底した情報公開を行い、継続的に評価を実施していく必要があります。

このような基本認識の下、平成２４年度は、ＮＰＯ等と区により行われた４つの協働事業を対象に、協働支援会議が第三者機関として評価を行いました。今年度の協働事業評価を行う中では、２年目の子育てを目的とする事業については、より協働に対する理解が進み、事業の対象者の抱えている課題にも柔軟に対応している状況や、区民に子育て支援ボランティアとして、社会参画・貢献の機会を提供する仕組みづくりが進められている状況等が確認できました。また、１年目の事業については、事業着手から、まもない時点での評価であるため、「計画」・「実施」段階での評価が中心となりましたが、団体の専門性が生かされ事業実施に取り組んでいる状況や、当初の認識に違いがあった点についての課題を把握し、その都度、役割分担を整理し事業に取り組む状況等を確認することができました。

平成２４年１０月には、協働の取り組みの主体となるＮＰＯ等や区管理職、類似の制度を持つ他自治体等の協力も得て、「事業評価を事業終了時の取扱いに反映させる」ことや「事業期間は３年間までを基本とする」こと等、協働事業提案制度の実効性を更に高める見直しの考え方を報告書として取りまとめ、新宿区に提出しています。

こうした見直しの考え方も踏まえ、協働のまちづくりが促進され、地域課題の解決に寄与することにより、多様な人々にとって新宿区がさらに暮らしやすいまちとなることを期待します。

新宿区協働支援会議 座長　久塚　純一

１　協働事業評価の概要

新宿区では、各主管課において多様な主体と様々な協働事業が進められ、２４年度の協働事業進捗調査では、１０１に及ぶ事業が様々な協働形態で行われています。その中で、協働事業提案制度により２４年度に実施された４つの事業について評価を実施しました。

各事業の評価については、それぞれの事業が、１６年に策定した「地域との協働推進計画」が基本目標として掲げる「多様で新たな区民ニーズへの対応」や「区民の参画意識と主体的な区民活動の促進」、「行政の体質改善」に結びつく取組みになっているのか、また、「相互理解」、「自主・自立性」、「対等の関係」等、６つの「協働の基本原則」を十分踏まえ、事業の目標や想定される成果が達成できたかといった点から評価を行いました。

また、協働の中身・質を高め、事業の目標や意図する成果を達成していくためには、協働の当事者が、互いにプロセスや成果を確かめ、議論し合い、相互検証を行うといった、一つひとつの経験を積み重ねていくことが大切です。そして、「計画」・「実施」・「結果」・「反省と改善」といった各事業の場面における評価基準を定め、客観的にその取組みの評価を行い、実施の場面で改善に繋げていくことが必要です。

そのため、各事業の評価については、協働事業の開始時に事業実施団体と区担当課が、事業の目的や目標、想定する成果等を共有したことを明確にするために作成した「事前確認書」と、事業の振り返りのために作成した「協働事業自己点検シート」・「相互検証シート」をもとに、提案団体と区の事業担当課へのヒアリングを行いながら第三者機関である協働支援会議が評価を実施しました。

各事業の評価結果については、１５頁以降に記載のとおりです。２年目の事業については「Ｂ：協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる」が２事業、１年目の事業については「Ｃ：協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある」１事業、「Ｄ：協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である」１事業という評価結果です。評価結果については、今後の団体の活動や、次年度の事業展開に反映していただきたいと考えます。

２　評価の目的

協働事業の評価は、協働の意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的として行います。

〈協働の意義〉

① 区民生活にとって効果的な事業を実施すること
② 協働を進めるＮＰＯ等と区が相互理解を進め、対等な関係を築いていくこと
③ 区民の主体的な活動を推進しコミュニティの形成につなげていくこと
④ 前例の踏襲や組織の縦割りの弊害など、これまでの区の仕事の内容や進め方を見直す契機とすること

⑤　様々な主体の自立性を高め役割分担を明確にしていくこと
⑥　協働事業を発展させ、住民福祉の維持向上と住民自治を推進していくこと
⑦　区民ニーズに基づく予算化の優先順位をつけるための判断基準の一つにすること

3　評価の手法

（1）事業実施団体と区担当課が作成した「事前確認書」を基本に、それぞれ「協働事業自己点検シート」の記入を行い、双方の協力の下、「相互検証シート」を作成します。また、評価時点までの事業の実施概要の提出を求めるほか、受益者からの評価はアンケート等で把握します。

これらを評価資料として、協働支援会議が両者にヒアリングを行い、第三者評価を実施します。

（2）評価については、「計画」・「実施」・「結果」・「反省と改善」の事業プロセスごとに評価を行うとともに、総合評価を実施します。事業プロセスごとの評価は、主に次の着眼点によって実施します。また、１年目の事業の総合評価は、事業の各プロセスにおける協働の取組状況と今後の事業に対する期待や展望といった点から評価を実施します。そして、２年目の事業については、１年目の評価の視点に加えて、成果目標の達成状況からも評価を実施します。

（3）評価結果については、ホームページ等により、広く区民等に公開し、事業の透明性を図り、更なる協働の推進に結びつけていきます。事業実施団体と区担当課は、評価の結果により、課題が明らかになった場合には、双方の活動や事業の実施に反映していくことが必要です。

■協働事業の評価にあたっての主な着眼点

協働事業評価項目 ①優れている　②適切である　③課題はあるが、ほぼ適切である　④不十分であり改善が必要　⑤その他			評価にあたっての主な着眼点 ※評価は、協働することの意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的に、事業実施者（事業実施団体と区の事業担当課）へのヒアリングにより行います。
計画	1	事業における区民ニーズや課題のとらえ方	地域ニーズや課題の共通認識での把握
	2	事業の成果目標の設定	成果目標の明確化と共有、 達成度を把握可能な成果目標の設定、 費用対効果からみた事業計画の妥当性
	3	協働の相手への期待とその成果	協働の相手方との問題意識の一致、 対等なパートナーシップの確立、 協働による相乗効果の把握と認識の一致
	4	役割分担の決定方法	十分な意見交換のうえでの、協働を有効に機能させるための役割・責任の分担の明確化
実施	5	事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	事業の進捗状況の確認や意見交換の実施、 必要に応じた協議のうえでの事業の進め方の軌道修正
	6	協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	目標達成に向けた取り組み状況の共有と検討、 必要に応じた協議のうえでの目標達成のための手段の見直しの実施
結果	7	当該事業実施における受益者（区民）の意見集約	事業対象者からの意見集約の手段の適切性、 事業関係者が受け止めた成果から見えてくる課題の整理
	8	今後の課題の把握および共有	事業実施を通して浮かび上がった課題や問題点の検証と共通理解
反省と改善	9	改善すべき内容の把握	改善方法の検討と共通理解、 今後の事業展開に関する方向性の認識の一致

４　評価の流れ

（１）　評価対象団体等

①　協働事業提案制度による事業実施団体（特定非営利活動法人、市民活動団体・ボランティア団体などの社会貢献活動団体。以下「ＮＰＯ等」という。）

②　区の事業担当課

（２）　評価対象事業

協働事業提案制度による２４年度実施の４事業

（内訳）・２２年度に採択した協働事業で実施２年目の２事業

・２３年度に採択した協働事業で新規実施の２事業

（３）　評価手法　「３　評価の手法」に記載のとおり

（４） 評価の実施経過

6 月 15 日	協働支援会議 評価の実施方針確認
8　月	ＮＰＯ等・区に自己点検・相互検証シート作成依頼 ＮＰＯ等と区がそれぞれに自己点検を実施
9　月	ＮＰＯ等と区が自己点検の結果をもとに意見交換し、相互検証を実施
10 月 29 日	協働支援会議（第１回協働事業評価会） ♦第１回ヒアリング　23 年度採択２事業
11 月２日	協働支援会議（第２回協働事業評価会） ♦第２回ヒアリング　22 年度採択２事業 ♦評価書作成方針確認
12 月３日	協働支援会議（第３回協働事業評価会） ♦評価内容の調整・審議
1 月 21 日	協働支援会議（第４回協働事業評価会） ♦評価結果のまとめ

5　協働事業評価実施事業

【平成 23 年度から継続実施している事業】

<table>
<tr><td colspan="2">事業名</td><td>赤ちゃん木育広場事業</td><td>ﾋｱﾘﾝｸﾞ実施日</td><td>平成 24 年 11 月 2 日</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">実施者</td><td>実施団体</td><td colspan="2">認定特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会</td></tr>
<tr><td>区担当課</td><td colspan="2">子ども家庭課</td></tr>
<tr><td rowspan="4">事業概要</td><td>目的</td><td colspan="3">①木のおもちゃにふれることにより、0歳から2歳の感性を磨き、木の癒しの効果により情緒の安定を図る。
②子育て支援を通した多世代の交流とボランティア人材の育成を行う。
③木育の成果を大学の協力により測定し、その結果を社会に還元する。</td></tr>
<tr><td>目標・成果</td><td colspan="3">①0歳から2歳の子どもと保護者への無料（土日祝日を除く）で継続的な木育による子育て支援の場を提供する。
②子育て中の親のエンパワーメントによる円滑な親子関係を築く機会の提供、多世代のボランティアとの関わりの中での子育て支援の意識の高まり。
③木育の取り組み・効果の区民への周知と区民に提供する新しい子育て支援のサービスメニューの増加。</td></tr>
<tr><td>課題の把握と改善</td><td colspan="3">【1年目の事業実施で把握した課題】
①新宿区全域に住む区民を対象とする事業となっているか。
②多世代の区民がボランティアとして参加する養成講座となっているか。
【2年目の改善点】
①区内全域での周知（新宿区保育園園長会での周知、子ども総合センターとの連携）
②男性・若年層に働きかけるチラシの作成と配布</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績等</td><td colspan="3">【赤ちゃん木育ひろばの運営】
①0歳から2歳の子どもと保護者（平日パス登録者）を対象。土日祝日を除き、10時から15時 30 分まで。無料
②4月～10 月　2,050 人が利用（四谷 1051 人・その他 999 人）
（23 年 11 月～24 年 3 月 1,317 人　四谷 689 人・その他 628 人）
③4月～10 月　582 人が平日パス登録（四谷 146 人・その他 436 人）
（23 年 10 月～24 年 3 月 613 人　四谷 211 人・その他 402 人）
④1日あたりの利用者数　4 月 15.4 人　5 月 14.1 人　6 月 18.6 人
7 月　18.2 人　8 月 18.2 人　9 月 19.9 人　10 月　21.6 人
【平日パス登録者の広域化・広域利用の促進に向けた周知】
新宿子育てメッセ（6月３日コズミックセンター）、もりのおもちゃ美術館イベント（5月 18 日～20 日新宿御苑）、新宿区保育士研修会、区立保育園園長会、私立保育園園長会での周知。落合・西新宿保健センター、子ども総合センターでの周知及び無料パス登録会の実施等。落合三世代交流サロンでの出前赤ちゃん木育ひろばの実施。</td></tr>
</table>

	実施内容・実績等	【木育サポーターの参加の呼びかけ・養成等】 ①木育サポーター養成講座チラシの作成（男性ボランティアの写真を使う等のデザインの変更）・早稲田大学へのチラシの配布等 ②2回の養成講座を実施（5月 25 日 21 人参加・10 月6日 27 人参加） ③参加者アンケートからは「毎回新しい発見がある」、「元気をいただきいつも感謝」等の声あり。 【木育の効果測定】 来場者の感想、アンケート調査等を踏まえ、木育の効果測定の準備中。本年度下半期に効果測定を実施予定

<table>
<tr><td colspan="2">事業名</td><td colspan="2">家庭訪問型子育てボランティア推進事業</td><td>ﾋｱﾘﾝｸﾞ実施日</td><td>平成 24 年 11 月 2 日</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">実施者</td><td>実施団体</td><td colspan="3">社会福祉法人二葉保育園</td></tr>
<tr><td>区担当課</td><td colspan="3">子ども総合センター</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業概要</td><td>目的</td><td colspan="5">①孤立している親を支援し、虐待の発生を予防する。
②地域住民が子育て支援に参加し、自己実現を図る。
③地域住民が子育て支援をし、地域を活性化する。</td></tr>
<tr><td>目標・成果</td><td colspan="5">①支援者が家庭に出向くことで、子育て支援拠点に出向くことのできない親子や、孤立した親子への支援が可能となる。
②専門職ではない地域の子育て経験者が無償で活動することで、「フレンドシップ」に基づいた信頼関係を構築し、継続した地域での見守りをおこなうことが出来る。
③地域の人材を活かすことで、支援のサイクルが循環し、支援を受けた経験を生かし、自らが支援者として活動する機会を提供することが出来る。</td></tr>
<tr><td>課題の把握と改善</td><td colspan="5">【1年目の事業実施で把握した課題】
①支援を求める人、要支援者（外国籍・ひとり親・障害児家庭等）を見つけ出すしくみづくり
②ホームビジターの質の向上（訪問回数・ビジター会議のあり方等）と費用対効果
③ニーズ・達成度・訪問回数等の支援の記録化と担当課・事業者との情報共有
④訪問終了時のフォロー体制と関係機関との連携確立
⑤孤立しがちな支援者を見守っていく体制づくりと地域の中での定着化
⑥利用者・ホームビジター、関係機関からの意見集約と区民評価の取り方、事業の向上に向けた活用
【2年目の改善点】
①広報の拡充（新生児訪問・外国人相談窓口でのリーフレット配布等）
②評価シートの活用
③訪問前後における既存支援策との連携状況一覧の作成
④関係機関（子ども家庭支援センター・保健センター）への情報の共有化</td></tr>
</table>

	実施内容・実績等	【訪問活動】 未就学児（6歳以下）がいる家庭に、ホームビジター（ボランティア）が、週1回2時間程度、4～6回無償で訪問を行う。訪問家庭に滞在中、「傾聴」（話を聞き）・「協働」（一緒に何かをする）等の活動を行うことにより、訪問した家庭（親）が心の安定を取り戻し、地域へと踏み出して他の支援や人々とつながるきっかけづくりを応援する。 ①4月～10 月派遣実績 21 件（23 年度からの継続含） 問合せ件数 22 件　申込件数 14 件　開始 13 件　終了9件 ②子どもの年齢　0 歳8人　1 歳7人　2歳9人　3歳4人　4歳4人　5歳3人 6歳1人（兄弟姉妹・双子4組） ③利用者ニーズ（ホームスタートニーズリストより） 「子育てを応援してくれる人・仲間が欲しい。孤立感を解消したい」「子育てサービス・施設の情報が欲しい」「子どもの困った（問題）行動を減らしたい」「外遊びや創作活動等、子どもの成長・発達を促す機会をもっと作りたい」等。 ④訪問による新たなサービス利用のひろがり ひろば等利用2件、一時保育利用2件、家事援助1件 【ホームビジターの登録・研修等】 ①登録者数 22 人（1期生 13 人・2期生9人） ②ホームビジター会議3回開催（4月6人・8月 13 人・10 月 14 人参加） ③事業啓発講座2回開催（4月説明会 29 人参加、3月報告会実施予定） ④ホームビジター養成講座（5月～7月　13 人参加） ⑤ホームビジタースキルアップ講座 ・子ども総合センター発達コーナー見学並びに職員のお話（9 月 15 人参加） ・東京おもちゃ美術館見学並びに職員のお話（11 月 15 人参加） 【事業周知】 ①子育てメッセでのPR （6月3日開催　約 900 人参加、リーフレット配布約 250 人） ②広報の拡充 リーフレット総配布枚数　約 7,000 枚

【平成 24 年度からの新規実施事業】

<table>
<tr><td colspan="2">事業名</td><td>新宿アートプロジェクト</td><td>ﾋｱﾘﾝｸﾞ実施日</td><td>平成 24 年 10 月 29 日</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">実施者</td><td>実施団体</td><td colspan="2">しんじゅくアートプロジェクト</td></tr>
<tr><td>区担当課</td><td colspan="2">多文化共生推進課・子ども総合ｾﾝﾀｰ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業概要</td><td>目的</td><td colspan="3">新宿区に在住する外国にルーツを持つ人々の多様性を文化資源と捉え、一歩進んだ新しい多文化共生のロールモデルを実現する。その多文化な背景を持つ子どもたちやその保護者と地域の日本人との住民参加による共同制作の場を提供することにより、多文化共生社会をともに創っていく。</td></tr>
<tr><td>目標・成果</td><td colspan="3">①創作活動については、外国にルーツを持つ人々も日本人も対等な立場で共同制作に参加することができる。また、双方向の取組みとして提供することが可能であり、このことにより、多文化共生の意識が醸成できる。
②団体の持つノウハウや人脈を如何なく発揮できるよう、区が実施場所・展示会場等の確保及び行政内部の調整等や実施関係者との連携に努めることで、区内全域での事業展開が可能になる。このことにより、比較的外国人住民の少ない地域においても多文化共生の意識啓発に向けた効果が期待できる。また、外国籍住民やその子どもと地域住民との交流ができることは多文化共生を推進する効果・成果が期待できる。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績等</td><td colspan="3">【芸術ワークショップ】 参加者　延べ334人（子ども 300 名・大人 34 人）
《凡例》
日（日本）韓（韓国）中（中国）比（ﾌｨﾘﾋﾟﾝ）ミ（ﾐｬﾝﾏｰ）タ（ﾀｲ）米（ｱﾒﾘｶ）
《注》
「新規欄」には、各回の芸術ワークショップに初めて参加した人数を記載
（初回の新規欄は、本事業の提案・実施に先立ち、団体単独で行っていた大久保アートプロジェクトを起点に初めて参加した人数を記載）

〔写真〕　（人）
<table>
<tr><th>日</th><th>場所</th><th>参加者</th><th>新規</th></tr>
<tr><td>6/2</td><td>あ　わ
スペース</td><td>子ども 11（日 5・韓 2・中3・比 1）
大人3（日3）</td><td>8</td></tr>
<tr><td>8/20</td><td>北新宿第
二児童館</td><td>子ども 10（日 8・中 1・ﾐ1）</td><td>10</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

実施内容・実績等

〔ダンス〕 （人）

日	場所	参加者	新規
8/9	子ども総合センター	子ども 22（日 2・韓 1・中 1・比 17・ミ1） 大人2（日 1・韓1）	21
8/16	同　上	子ども 26（日 3・韓 1・中 1・比 20・ミ1） 大人3（日 2・韓1）	8
8/23	同　上	子ども 35（日 9・韓 1・中 2・比 21・タ1・ミ1） 大人6（日 5・韓1）	15
8/30	本塩町児童館	子ども 20（日 19・その他1）	9
9/15	子ども総合センター	子ども 15（日 3・韓 1・中 1・比 9・ミ1）	1
9/21	本塩町児童館	子ども 12（日 11・その他1）	1
9/29	子ども総合センター	子ども 19（日 6・韓 1・中 1・比 9・ミ2） 大人 3（日 2・ミ1）	5
10/6	同　上	子ども 25（日 2・韓 1・中 1・比 18・ミ3） 大人 3（日 2・ミ1）	4
10/11	本塩町児童館	子ども 12（日 11・その他1）	－

〔映像〕 （人）

日	場所	参加者	新規
7/21	あわスペース	子ども 13（日 2・韓1・中4・比5・タ1） 大人10（日 7・韓 1・中1・米1）	13
7/28	榎町子ども家庭支援センター	子ども 10（日 3・比 5・タ1・ミ1）	6
8/3	あわスペース	子ども 13（日 5・韓 3・中 3・比 2） 大人1（韓1）	9
9/24	東五軒町児童館	子ども 25（日 25） ［上映会を含むと子ども 37、大人1（日 38）］	25

実施内容・実績等

〔音楽〕 （人）

日	場所	参加者	新規
10/26	子ども 総合センター	子ども 14（日 2・韓 5・比 4・タ1・ミ1・その他 1） 大人 1（日 1）	15
10/27	同　上	子ども 18（日1・韓4・中 4・比 7・タ1・その他 1） 大人2（日2）	7

〔ワークショップによる効果の確認できた事例〕（抜粋）

①写真を通して、自らの生活を振り返り、まちの移り変わりを意識することで、地域と自分の生活のつながりを感じ、自らを地域の住民として認識。

②映像ワークショップがきっかけとなり、中高生を中心に自分たちで生活や街を紹介するビデオ、自分の国の音楽を使ったミュージックビデオの自主制作が進行している。東新宿に設けた子ども達の居場所スペースにて週に2回のペースで集まり、自ら企画・撮影を計画し実施している。

③日本語に自信が持てず、友人とも十分なコミュニケーションが取れない中、映像ワークショップに参加し、日本語ナレーションを担当。達成感から日本語習得をはじめ他の活動にも積極的になった。

【地域イベントへの参加等】

①ユースカウンシル（青少年による会議）立ち上げのためのワークショップ開催 6 月 9 日大久保地域センター

②10 月8日　大久保まつり、10 月 20 日　本塩町児童館発表会、11 月 10 日　踊りの祭典 2012、 11 月 11 日　ここからまつりで、ダンス写真・映像作品の発表

③ギャラリー大ガードみるっく、ハイジアアートギャラリーでの区民向け作品展示等

④新宿区多文化共生連絡会、子ども総合センター地域活動連絡会、大久保地区協議会への参加等

⑤「大久保アートプロジェクト」ドキュメンタリーの上映・大学での講演等

<table>
<tr><td colspan="2">事業名</td><td colspan="2">街角スポット活用事業</td><td>ﾋｱﾘﾝｸﾞ実施日</td><td>平成 24 年 10 月 29 日</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">実施者</td><td>実施団体</td><td colspan="3">公益社団法人日本芸能実演家団体協議会</td></tr>
<tr><td>区担当課</td><td colspan="3">文化観光課</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業概要</td><td>目的</td><td colspan="4">文化芸術の鑑賞・参加・創造の場として活用可能な駅前、ひろば、ロビー、壁面、河川等の公共的空間を「街角スポット」としてリストアップするとともに、「街角スポット」を活用した文化芸術団体等の活動のコーディネイトを行うことにより、多様な文化芸術活動が重層的に展開されていくための基盤整備と文化芸術の振興による地域の活性化を進める。</td></tr>
<tr><td>目標・成果</td><td colspan="4">①街角スポットを把握し、広く、区民・文化芸術団体等に活用してもらえる情報を整備・提供することで、街角スポットと区民・文化芸術団体等とを結びつける。
②文化芸術への参加の機会が少ない区民等に街角スポットで気軽に鑑賞できる場を提供することで、文化芸術活動への参加のきっかけとする。また、文化芸術活動における活動・発表の場を拡大し、実演芸術家の活動機会の確保が図れるほか、区内の文化芸術団体の活動の活性化・ネットワーク化を促進する。
③文化資源やスポットを掛け合わせて新たな文化観光資源に育てていくことや、既存の催事と街角スポットを掛け合わせて催事に厚みや拡がりをつけていくなど、区民の多彩なアイディアを具体化できる場としていく。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績等</td><td colspan="4">【「使える」スポット調査】
区、商店会や企業等への情報提供依頼に基づき、スポット候補の事前調査、現地調査を行い、使用に際しての制約要件等を把握する。
①アンケート調査　発送 268 件　回答 40 件（14.9%）
・芸能実演家・各商店会・アーティストバンク登録者を対象に調査を実施。
・新宿駅東口ひろば、高層ビルのロビー空間、早稲田大学周辺、神田川の川床等 53 件のスポット候補を抽出。
②ヒアリング調査（9件）　現地調査（18件）、施設の貸し出し条件等を調査
【「街角スポット活用」キャンペーン催事】
街角スポットを使うことの実例を示すとともに、配布物等を通じて新宿フィールドミュージアム構想の周知も行う。
11/29　新宿三井ビルロビー
12/23 新宿駅東南口　フラッグスビルエントランス
2/27 新宿アイランド　パティオ
3月上旬　赤城神社又は白銀公園</td></tr>
</table>

※　各事業の事業概要欄の記載内容については、事前確認書、相互検証シート、ヒアリング時の提出資料による。

協 働 事 業 の 評 価 結 果

（１）赤ちゃん木育広場事業　Ｐ　１６

（２）家庭訪問型子育てボランティア推進事業　Ｐ　２１

（３）新宿アートプロジェクト　Ｐ　２６

（４）街角スポット活用事業　Ｐ　３１

協働事業評価書

◇評価者〔　新宿区協働支援会議　〕
◇事業名〔　赤ちゃん木育広場事業　〕

●　総合評価

B

A　協働事業として適切で優れていると評価できる。
B　協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
C　協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
D　協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
E　協働事業としては不十分であった。

・総合評価コメント

赤ちゃん木育ひろばが毎日 20 組近い親子（区民）に利用され、ボランティアである木育サポーターにも 50 人近い区民が参加し、区民の笑顔が生まれたことは大きな成果である。また、区外や都外からも多くの親子が訪れ、マスコミにも取り上げられていることは、団体の持つ実績と専門性、発信力、日頃のスタッフやボランティアの努力の結果と評価したい。

２年目の事業実施にあたり、確認した「新宿区全域に住む区民を対象とした事業」、「多世代のボランティアの参加」等の課題に対しても、ＮＰＯ・担当課双方がよく話し合い、柔軟に改善策を講じている。また、「区民平日パス」の登録が様々な場所で行われ、登録者は区全体に広がりを見せており、地域人材の活用についても十分に認識した上で事業が行われ、事業規模の拡大等の成果も見られていることも評価したい。

協働事業で実施した２年間の成果や課題を踏まえ、「木のおもちゃを活用した子育て」を地域での子育て支援のシステムとして構築し、子育てにやりがいと楽しみを持つ子育て支援を区内全域にわたって広げ、展開していくことを当支援会議として期待したい。そのためには、より多くの子育て中の保護者への継続的な呼びかけを行い、木育サポーターとしてのボランティアを増やすとともに、児童館、私立保育園、無認可保育園、認証保育園、子育てサロン等にも更に積極的にアプローチを行い、「出前木育事業」を展開していくことが必要ではないか。さらには、木育の効果として、如何に感性を磨き、癒しの効果があり情緒の安定が図られるか、しっかり検証していくことも大切である。

本事業は、乳幼児のみならず、子育てに悩む親や、木育ボランティアとして参加する区民や団体、「新宿の森」のある伊那市、沼田市、あきる野市等が事業を通して様々な「つながり」を持つことができる可能性がある事業であり、子育て家庭の交流の場やサ

ポーターの居場所、子育て支援に関わる老若男女が自然に集まる場としても、大きな発展が期待できる事業である。

ＮＰＯ法人「日本グッド・トイ委員会」は、豊富な実績と経験があり、自立して、本事業を推進して行けるものと思われる。また、区も、子育てにやりがいと楽しみを持つ子育て支援を区内全域で実現していくためにも、力強い協力と支援をする必要があると思われる。

子育ては２年で終わるものではないし、子育て支援も２歳まででではない中で、安心して子育てができる環境や地域社会をつくるために、市民活動のリーダーとしてのＮＰＯと行政がそれぞれの役割と責任を果たされるよう期待したい。

● 項目別評価

１＝優れている　２＝適切である　３＝課題はあるがほぼ適切である
４＝不十分であり改善が必要

協働事業評価項目		評価指標
計画	①　事業における区民ニーズや課題のとらえ方	１・２・[3]・４
	②　事業の成果目標の設定	１・２・[3]・４
	③　協働の相手への期待とその成果	１・２・[3]・４
	④　役割分担の決定方法	１・[2]・３・４
実施	⑤　事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	１・２・[3]・４
	⑥　協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	１・[2]・３・４
結果	⑦　当該事業実施における受益者（区民）の意見集約	１・２・[3]・４
	⑧　今後の課題の把握および共有	１・２・[3]・４
反省と改善	⑨　改善すべき内容の把握	１・２・[3]・４

・評価コメント

協働事業評価項目		評価点
計画	①　事業における区民ニーズや課題のとらえ方	3
	少子社会において、安心して子育てが出来る環境の整備は必要であり、この事業の持つ親子のふれあい、子育て仲間の繋がり、ボランティアとのコミュニケーションを深める場の提供という面は区民ニーズを捉えていると評価する。 ２年目の取り組みとして、無料パスの登録や利用者アンケートにより、四谷地域以外からも登録者・利用者・ボランティアが増えている状況は確認できるも、区内全域に協働事業の効果を広げ、新宿区全体へ浸透を図るといった点が、必ずしも十分にクリアされたとは言い難い。また、区民よりも区外の利用者が約４倍という点も気になるところである。（2012 年 2 月～3 月実施の利用時アンケートによると、新宿区 29、区外 100） ０～２歳の時期に木育を始める意義について、１年目のアンケート結果を踏まえ、２年目後半の取り組みとして、成長過程で如何なる効果があるのかを検証していただきたい。	
	②　事業の成果目標の設定	3
	木製のおもちゃを通して、乳幼児の育みや親同士の交流の促進、さらには、ボランティアの育成までの事業の目標設定は有効であるものの、２年目の事業でもあることから、達成度を把握するための数値目標の設定がほしい。 ０～２歳の来館者数・利用者に占める四谷地域の相対的な割合が減少したこと、利用者のアンケート等の「利用状況」は、表やグラフを取り入れて分かりやすく明確であった。 １年目で把握した課題としての「幅広い年齢・性別のボランティアの参加が得られたか」、「多世代との交流が行われているか」が分かるような目標設定（メジャメント）が必要ではなかったか。費用対効果の検証及び木育の効果測定を行い、成果を見定め、１年目の課題であった区内全域に拡大していく取り組みをさらに強めるよう要請したい。	
	③　協働の相手への期待とその成果	3
	木育ひろばの成果を最大限とするために、事業者と区が目的を共有し、双方でよく意見交換を行い、相互理解を図り、事業の全区的広がりへの足がかりをつくるための努力をしていることがよく分かり、適切である。しかしながら、前年度の評価の際にも明らかになった区側の全区的に広げたいという想いと、団体の“赤ちゃん木育ひろば”に来てほしいという認識の違いの壁が今もって取り除かれていないと判断する。	

	④　役割分担の決定方法 2 ＮＰＯと行政はそれぞれの立場や特性を理解して役割分担を決めており、２年目の事業として、十分な話し合いも行われ、課題も見えてきたと思う。事業の成果を更に十分なものとしていくために、自らの守備範囲にとどまることなく、双方がより踏み込んでいくことを期待する。
実施	**⑤　事業の進捗状況や事業に関する情報の共有** 3 木育広場の全区的な展開について、方向性の違いはあったものの、事業の進捗状況の確認やボランティアの意向を把握していることで情報の共有は出来ており、改善策を実施し、成果を挙げており適切である。事業の進捗に対する共有という点において、目的の一つに掲げた木育の効果測定についての共有にも心がけられたい。
	⑥　協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い 2 １年目に積み残した課題や事業実施の中で浮かび上がった課題について、率直に話し合い、試行錯誤しながらも、出前イベントや無料パス登録会を柔軟に実施する等、目標達成に向けた改善も行なわれ、全区的な成果を生むための双方の取組姿勢は評価できる。 行政サイドとしては、より多くの区民の親子が触れることの出来る体制を望んでいると推測されるので、更に児童館へのアプローチなどの実現へ向けて努力されたい。本事業の成果目標は「子育ての場の提供」のみならず、地域での子育て支援の基盤の形成であり、そのことに向けた双方の話し合いを更に深めていくことを期待する。
結果	**⑦　当該事業実施における受益者（区民）の意見集約** 3 無料パスの登録者数や地域分布、木育ひろばの利用者数や乳幼児の反応・保護者の声など、充実した量的・質的な調査がなされている。木育サポーターのコメントからも、質の良いサービスを提供していることが推測できる。 利用者アンケートによる利用者満足度は計測され、傾向はつかめている状況にあるので、今後、本事業を地域における子育て支援基盤の一つと位置づけていくためにも、区民を対象にした意見集約も図っていただきたい。
	⑧　今後の課題の把握および共有 3 ２年目の事業として、登録者の地域別の偏り等、これまでの事業の中で明らかになった課題に対して、双方がよく話し合い、柔軟に改善策を講じており、事業規模の拡大等の成果も見られ、高いレベルで課題をクリアしてきている。 今後の課題としては、出前のおもちゃひろば等の取り組みもなされているものの、その活動は限定的であり、新宿区全体に「木のおもちゃによる子育て」を拡大していく上での計画や体制が未だ整っていない点がある。ボランティアも増やし、多世代のボランティア活動による相互ホスピタリテイの向上にも期待したい。さらに、木育の効果として、如何に感性を磨き、癒しの効果があり情緒の安定が図られるか、しっかり検証していただきたい。

反省と改善	⑨　改善すべき内容の把握　3
	より全区的な展開や保育・教育機関との連携、幅広い年齢・属性のボランティア参加など概ねの課題は把握されており、改善すべき内容は相互に認識してはいるが、木育サポーターの増員や定着を図るためのフォロー講座の開講やサポーター同士の意見交換会・懇親会の実施等の工夫の余地もあるのではないか。また、木育の癒しの効果測定からの改善すべき内容を明らかにしていくことも課題である。この事業の目的とする「木のおもちゃによる子育て」を地域での子育て支援のシステムとして構築し、子育てにやりがいと楽しみを持つ子育て支援を、更に区内全域にわたって広げ、展開して行くよう期待する。

協働事業評価書

◇評価者〔　新宿区協働支援会議　〕
◇事業名〔　家庭訪問型子育てボランティア推進事業　〕

●　総合評価

B

A　協働事業として適切で優れていると評価できる。
B　協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
C　協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
D　協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
E　協働事業としては不十分であった。

・総合評価コメント

子育てに対する新しい視点からの支援事業に、団体と区が共通認識のもとで積極的に事業に取り組んでいるものと評価する。事業の実施過程で出てきた課題に対しても、一つひとつ丁寧にクリアしていく様子が伺われ、利用者の抱えている課題にも柔軟に対応し、寄り添っていることも高く評価できる。また、区民がホームビジターとして支援家庭に関わることにより、子育て支援ボランティアしての社会参画や貢献の機会を提供する仕組みを実現していることも評価したい。

この事業の根幹は、支援される家庭の発掘とホームビジターの育成であり、団体と区双方が、それぞれの特性を活かし、事業実施と支援体制における役割分担を果たしている。また、初年度と比べて、関係機関との情報交換や連携は活発であり、要支援者の掘り起こしに向けた保健センターとの連携、民生児童委員会、新宿子育てメッセでのＰＲ等の取組みから確認できる。

これらの点から、本事業が２年目の事業目標・成果として設定した「孤立している家庭へのきめ細かな対応と地域住民が子育てに関心を持ち、地域で子育て家庭を見守っていくしくみづくり」は一定程度実現できたものと考える。

今後、本事業が区内で定着し、全区的な展開の下で、地域社会で子育て支援が可能となるシステムとなっていくことを当支援会議として期待したい。さらには、今利用している人が、将来支援する側に回るようなしくみとして地域に根づいていければと思う。

支援を求めている人たちへの対応、他の専門的な支援が必要な人たちへ繋ぐコーディネート等、本事業において、ホームビジターは大切な役割を果たしている。今後の事業展開にあたって、ホームビジターやオーガナイザーの確保には、相当の困難が伴うと思われるので、しっかりした計画の下に、人材を確保し、育成されたい。

また、団体・区ともに、引き続きホームビジターの活動をしっかりと支えていくことを求めたい。さらに、効率的な事業運営に留意するとともに、地域社会や他の専門的な分野の支援団体との協働による支援内容の拡大、既存支援施設や福祉サービスへの引き継ぎ、外国人家庭・深刻な孤立層への PR などの課題にも果敢にチャレンジしていってもらいたい。

そして、今回の協働事業で把握された子育て支援の新たな課題を含め、子育て支援関連団体との意見交換や検討の場をつくり、これまでにない一歩も二歩も前進した支援活動に発展し、新宿区モデルができることを期待したい。

● 項目別評価

１＝優れている　２＝適切である　３＝課題はあるがほぼ適切である
４＝不十分であり改善が必要

協働事業評価項目		評価指標
計画	①　事業における区民ニーズや課題のとらえ方	１・[2]・３・４
	②　事業の成果目標の設定	１・２・[3]・４
	③　協働の相手への期待とその成果	１・２・[3]・４
	④　役割分担の決定方法	１・２・[3]・４
実施	⑤　事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	１・[2]・３・４
	⑥　協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	１・２・[3]・４
結果	⑦　当該事業実施における受益者（区民）の意見集約	１・２・[3]・４
	⑧　今後の課題の把握および共有	１・２・[3]・４
反省と改善	⑨　改善すべき内容の把握	１・２・[3]・４

・評価コメント

協働事業評価項目		評価点
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	2
	核家族化が進む中、「子育て支援が届かない家庭への支援」は、今後ますます重要な課題であり、区民のニーズや課題を適切に捉えた事業である。 実施団体は新宿区の組織する虐待防止等部会や発達支援部会の構成員であり、通常の活動の延長線上で本事業を捉えることができ、多くの関係部局の支援を受け、情報が得られる状況を作り出しているとともに、支援家庭を掘り起こし、訪問した家庭のニーズや傾向等も捉えられており、適切である。今後の取り組みとして、区内の多くのひろば等との連携を図り、口コミによる支援家庭の掘り起こし、区民間のつながりや地域社会での取組みとして拡充していくことを期待する。	
	② 事業の成果目標の設定	3
	この事業における成果目標は「孤立している家庭へのきめ細かな対応と地域住民が子育てに関心を持ち、地域で子育て家庭を見守っていくしくみづくり」が出来ることである。地域の子育て経験者がホームビジターとして家庭に出向くことで、育児ストレスの高い家庭の現状が把握でき、孤立した親子の支援が的確になる。また、ホームビジターの関わりにより、親子間の信頼関係が構築され、そのことが、ホームビジターの問題意識も醸成、ひいては地域全体で課題を共有するきっかけやネットワークの広がりに結びついていく。また、こうしたシステムの前提となっているのが、支援を必要としている家庭の掘り起こしやホームビジターの確保と質の向上であり、事業の成果目標の設定は適切と考える。今後は、その上で、地域社会での活動の定着や実績を踏まえた地域へ踏み出した支援を期待し、より全区的な視点や数値目標の設定による成果の把握を行っていくことが必要ではないかと考える。	
	③ 協働の相手への期待とその成果	3
	各々が専門とする分野を理解し、互いに信頼しながら事業を進めていることが伺えた。また、相互の連携に止まらず、児童及び母親に関連を持つ諸機関とも連携を取りながら、要支援者の掘り起こしが図られており、こうした活動は今後の更なる事業拡大を予感させ、評価出来る。 ホームビジターの訪問状況、養成講座などに関する意見交換や連携もよく図られており、双方の信頼関係が築かれているように思う。ヒアリング時のホームビジターの発言からも一定の成果をあげていることが推察できた。 今後も、絶えず話し合い、確認しあいながら進められることを要請したい。また、更に利用者の声から広がる支援の仕組みづくりを進めていくことが必要ではないかと考える。	

	④　役割分担の決定方法　3 この事業の根幹は、支援される家庭の発掘とホームビジターの育成であり、実施団体と区双方が、それぞれの特性を活かし、事業実施と支援体制における役割分担を果たしている。また、初年度と比べて、関係機関との情報交換や連携は活発であり、システムが徐々に形づくられていることが、要支援者の掘り起こしに向けた保健センターとの連携、民生児童委員会、新宿子育てメッセでの PR などの取組みから確認できる。子育て支援という分野だけではなく、生活に関わることも含まれる支援活動は、双方が幅広く活動内容を理解し合い、そのうえで可能な限りの役割を果たしあうことで目的に近づいていくことができるので、双方の努力によって、今後も、役割分担が適宜・適切に果たされ、支援の広がりの中で関連支援機関との一層の連携がなされる必要があるものと考える。
実施	**⑤　事業の進捗状況や事業に関する情報の共有**　2 ２年目の事業でもあり、事業の進捗や成果について、適切に共有ができている。ビジター会議での意見交換や課題の共有、事業の進捗状況の認識がよくなされていることは評価する。今後もなお一層、情報の共有化を推進していただきたい。また、事業が引き続き継続されるための話し合いも進めてほしい。
	⑥　協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い　3 本来の目標である「子育て支援が届かない家庭への訪問」について、着実に訪問が出来ており、目標の達成に向けた努力がなされている。また、相互検証シートからも、より成果を生むために双方の丁寧な議論が確認でき、「新宿区子ども家庭・若者サポートネットワーク」も活用した定期的な話し合いも行われている。 既訪問家庭へのモニタリングの結果を現在訪問進行中の支援家庭に活かすとともに、更なるモニタリング箇所の増加へとつなげていただきたい。また、援助期間終了後のフォローや事業終了後どのようにしていくのかまで深堀りした話し合いを行っていく必要があるものと考える。
結果	**⑦　当該事業実施における受益者（区民）の意見集約**　3 訪問終了時にもアンケートをとるなど、利用者の意見聴取に取り組んでいる。ビジターとオーガナイザーが連携して、訪問家庭のモニタリングを行い、その結果を次回訪問に活かすなど評価できる。評価会でのホームビジターの発言も貴重なものであり、実際に訪問してみないと把握できない貴重な意見・要望が回収できていると思われる。今後は、ビジターの活動内容、ホームスタートニーズリスト等から定性的な利用効果を定量的に算出して、利用者の自立、訪問者の自己実現へつないでいくことを期待したい。また、被支援家庭、ホームビジター、関連諸機関及び地域社会の意見集約を行うことも必要と考える。

	⑧　今後の課題の把握および共有　3 これまでの事業で得た経験・知見等を踏まえ、「孤立」の定義変更やビジターの訪問回数を柔軟化させるなど、現場のニーズに即した事業展開を検討しており、大いに評価できる。また、事業を定着させていくための担い手としてのビジターを育成していく課題も把握されているようである。 子育て支援は継続されるべき取組みであり、この事業終了後のあり方として、行政が本来事業に組み込んで、引き続き、団体や区民との協働事業として進めるのか、団体が広く区民や企業にも呼びかけ地域社会の事業として取り組むのか、この機会に協議が行われるよう要請したい。また、訪問活動の集計や活動評価を十分に行い、今後に活かしていただきたい。訪問先の事情に応じて最適な支援の出来るホームビジターの質の向上を図ると共に数の確保が課題となってくるものと思われる。
反省と改善	**⑨　改善すべき内容の把握**　3 1 年目と比べ 2 年目が広がりを持っており、障害児、外国籍児を持つ家庭や引きこもりがちな家庭等、様々な事情の家庭に対する支援について把握できている。また、ビジター訪問から既存支援施設・サービスへの引き継ぎの課題や、外国人家庭・深刻な孤立層への PR など改善すべき内容はよく把握されている。 今期の支援実績では「子どもとの遊び」が多いという結果が出ているが、他のＮＰＯや機関との連携を考える必要があるのではないか。また、地域での広がりを持たせるためには、シニア世代の地域活動促進の場として、シニア活動館、社会福祉協議会の地域コーディネーター養成講座等で紹介する機会を設け、さらなるビジターを発掘することが、この事業の発展に繋がるのではないか。 家庭訪問の効果と課題の検証を深めること、ホームビジターへのフォローアップ講座等、事業の実効性を高める柔軟な取り組みを期待したい。

協働事業評価書

◇評価者〔　新宿区協働支援会議　〕
◇事業名〔　新宿アートプロジェクト　〕

●　総合評価

C

A　協働事業として適切で優れていると評価できる。
B　協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
C　協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
D　協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
E　協働事業としては不十分であった。

・総合評価コメント

本事業は、これまで実施団体が地域の中で取り組んできた「大久保アートプロジェクト」の経験を活かし、区との協働事業として実施してきた事業である。事業の実施にあたっては、地域に根付く方向性が示される中、団体の専門性が発揮され、区側も事業の実施場所の確保に汗をかく等、協働に取り組む姿勢は評価できる。また、認識に違いがあった点についても、設置した定例会の中で、課題を整理し、その都度、役割分担の確認がされている。また、実施１年度目の事業にもかかわらず、写真・映像等の共同制作、ダンス・ワークショップ等の事業も数多く行われ、延べ 300 人を超える子どもが参加する中で、外国にルーツを持つ子どもと日本人の子どもとの「つながり」が生まれ、アートを通した多文化共生意識も芽生えつつある。そして、自主財源の確保として、本事業に付随する「大久保アートワークショップドキュメンタリー映像上映」についても着実に成果を上げており、大学・自治体・他のＮＰＯ等からも関心が寄せられつつある。

一方、地域分散型で行ってきた芸術ワークショップ等では、実施地域によって参加者層に偏りが見られ、今後、区全域への広がりをどのように確保していくかは課題である。

また、それぞれの項目別評価でも触れたとおり、この事業の目標・成果とする「多文化共生の意識の醸成」に向けて、活動指標として何をどれだけ実施するかを具体的に定め、事業効果についても、活動結果から生じる具体的な成果を目標として設定し、定期的な数値計測を行い、事業展開していくことを求めたい。

多文化共生のロールモデルとして実施している、この事業に参加したそれぞれの国にルーツを持つ子どもたちと大人が更にこれらの人々を取り巻く地域住民と今後どのように情報の交換を行い、連携を深めていくことができるのか。この事業がそのきっかけとなり、多文化共生社会を築いていける話し合える場となっていくことを期待したい。

そして、この事業の目的として掲げる「多文化共生社会の実現」に向けて、団体と行政がこの事業の課題や成果、基本的な方向性を議論し、引き続き確認し合っていくことを望みたい。

● 項目別評価

１＝優れている　２＝適切である　３＝課題はあるがほぼ適切である
４＝不十分であり改善が必要

協働事業評価項目		評価指標
計画	①　事業における区民ニーズや課題のとらえ方	１・２・$\boxed{3}$・４
	②　事業の成果目標の設定	１・２・$\boxed{3}$・４
	③　協働の相手への期待とその成果	１・２・$\boxed{3}$・４
	④　役割分担の決定方法	１・２・$\boxed{3}$・４
実施	⑤　事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	１・$\boxed{2}$・３・４
	⑥　協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	１・２・$\boxed{3}$・４
結果	⑦　当該事業実施における受益者（区民）の意見集約	１・２・$\boxed{3}$・４
	⑧　今後の課題の把握および共有	１・２・$\boxed{3}$・４
反省と改善	⑨　改善すべき内容の把握	１・２・$\boxed{3}$・４

・評価コメント

協働事業評価項目		評価点
計画	①　事業における区民ニーズや課題のとらえ方	3
	言語・教育・生活環境等、様々な課題に直面する外国にルーツを持つ子どもたちが自己肯定感を持って、主体的に生きていけるように支援することは大切なことであり、自らの存在を二国間の架け橋として認識する国際的な人材の育成にも貢献するものである。ＮＰＯが自らのミッションとして行ってきた実践的な取り組みからも十分ニーズを捉えていると評価する。 本事業は、外国にルーツを持つ人々の多様な文化を文化資源と捉え、芸術ワークショップ等のプログラムを実施してきているが、こうしたプログラムの実施にあたっては、参加者のみならず、地域社会が様々な国の文化の受け入れに理解を示すよう、積極的に関わるような取組みやしかけをつくっていくことも必要である。	
	②　事業の成果目標の設定	3
	事業着手時に作成する事前確認書では、「事業目標・想定される事業の成果」として「創作活動では共同制作を対等な立場で参加することができ、双方向な取組みとして提供できる。」と説明されている。設定が困難であることは理解できるものの、成果目標が抽象的であり、達成度の把握ができないことは課題である。また、「対等な立場」をどのように担保していくのか。「事業目的」や「事業の概要」欄にも「外国にルーツを持つ住民」と「日本人住民」とあるが、どのように対象者を捉えていくのか。その点を明らかにしていくことで、具体的な成果の検証ができるようになるのではないか。 ヒアリング実施時までの活動結果は良くまとめられている。更に、活動結果から生じた状況を整理し、具体的な成果や数値計測による効果測定を定期的に行い、まとめることで具体的な成果目標を設定されたい。外国にルーツを持つ人々が主体となる取り組みが中心となっているが、地域社会・区民の視点を成果目標の設定に織り込んでいくことも必要ではないかと考える。	
	③　協働の相手への期待とその成果	3
	団体、行政間で事業計画についての検討、意見交換が良く図られ、一地域にとどまることなく幅広く事業の周知が行われる等、協働による相乗効果を目指した努力が認められる。 今年度見送った学校関係への取り組みも進めていくことを期待する。	

	④　役割分担の決定方法　3
	相互に緊密な話し合いによって、それぞれの役割を十分に認識して上で、分担を決めている。また、認識に違いがあった点についても、設置した定例会の中で、課題を整理し、その都度、役割分担の確認がされている。大久保地区以外でも広く区内の児童館等と連携し事業を実施しているが、各地域において参加者層を広げていくための役割分担等について、更に意見交換を重ねていくことを期待したい。
実施	**⑤　事業の進捗状況や事業に関する情報の共有**　2
	実施現場にはＮＰＯと区も立ち会い、状況を共有しているものと判断する。また月１回定例会を開催し、情報交換や意見交換を定期的に行っていることも評価出来る。定期的な情報の共有や意見交換を進めていくことが、認識の違いを埋めていくことになるので、今後も継続的に取り組んでいくことを期待する。
	⑥　協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い　3
	月１回の定例会を通じて、進捗状況や課題などを緊密に話し合い、目標達成に向けた努力がなされている。また、ワークショップに加えてフェスティバルや地域のお祭りへ参加するなど事業の波及効果を高めていることは評価する。 また、今後の成果目標の達成状況の検証にあたっては、ワークショップの参加者数に加えて、交流した結果、何が解ったのか、何が問題点なのかを整理し、その結果を次の計画に生かしていくことが大切ではないか。この事業に対する区民ニーズ、課題に対する具体的な指標の策定についても話し合いを行っていただきたい。
結果	**⑦　当該事業実施における受益者（区民）の意見集約**　3
	6 月から 10 月にかけて写真、映像、ダンスとワークショップを 17 回実施し、延べ 300 人の子ども（外国にルーツを持つ子ども 184 人）と延べ 34 人の大人が参加している。報告事例には心を打つような記載も多く、参加者アンケート・インタビュー等により、意見の集約が行なわれている。 今後の事業実施にあたっては、地域住民の相互理解や不安感の軽減といった多文化共生をめぐる課題の解決に、この事業をどのように結びつけるかということも検討していただきたい。この事業に対する区民の理解や認識等について、アンケート等の方法により意見集約を行い、そこから出てくる課題、問題点を整理し、事業展開に役立てることを要望する。
	⑧　今後の課題の把握および共有　3
	定例会の開催等を通して、共有できたこと、認識に違いがあったことも相互に把握されていて、改善に向けて努力がされている。参加者の満足感も把握し、外部からも活動に関する関心が寄せられ、事業の広がりが感じられることも評価する。今後も「多文化共生社会の実現」に向けて、団体と行政がより一層連携を強めていくことを望みたい。

反省と改善	⑨　改善すべき内容の把握　3 ＮＰＯと区が丁寧に議論を重ね、改善・修正点を含め事業を推進している。意識の隔たりの解消について、その困難性も認識され、改善に向けた努力がなされている。 事業の目標・想定される成果として、「この事業を実施することにより、多文化共生の意識の醸成ができるとしている」が、活動指標として何をどれだけ実施するかを具体的に定めた活動としていただきたい。また期待される効果として、「協働により区内全域で事業が展開できる」、「多文化共生社会を推進する効果が期待できる」としているが、成果指標として活動結果から生じる具体的な成果や定期的な数値計測を行い、事業展開していくことも必要ではないか。学校に対しては、今年度の対応を踏まえた働きかけをしていっていただきたい。そして、「多文化共生社会の実現」に向けて、団体と行政がより一層連携を強めていくことを望みたい。

協働事業評価書

◇評価者〔　新宿区協働支援会議　〕
◇事業名〔　街角スポット活用事業　〕

●　総合評価

D

A　協働事業として適切で優れていると評価できる。
B　協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
C　協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
D　協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
E　協働事業としては不十分であった。

・総合評価コメント

「街角スポット活用事業」は、この事業で発掘した街角スポットと文化芸術活動に関わる区民・地域・団体等、様々な主体を結びつけることで、魅力的で元気なまちづくりが行われ、新宿のまちの賑わいや活性化につながる可能性を持つ事業である。

実施団体の専門性・能力が発揮されている部分はあるものの、現段階までの取組内容については、成果目標が明確ではなく、区民参加も乏しい等、多くの課題が山積している。

「文化芸術創造のまち　新宿」の実現に向けて、どのように「街角スポット」を活用し、地域の活性化や新宿フィールドミュージアムの展開と結び付けていくのか、この事業が目指すものや、具体的な方向性、成果目標をしっかりと打ち出していただきたい。

また、「街角スポット」として、今年度は、高層ビルの足元空間等を活用したパイロット事業を実施し、課題の整理を行うとのことであるが、こうした取組みとあわせて、より多くの区民等の意見も聴取し、文化芸術活動を起爆剤とした地域活性化を可能とする場所の選定を行い、活性化のプログラムを策定していっていただきたい。

既存施設のデータベース化とあわせ、多くの区民・文化芸術団体と街角スポットを結びつけるための仲介役として、コーディネートを行っていくことが、多様な文化芸術活動の基盤を整備し、文化芸術の振興による地域の活性化を実現していくことになるのではないか。

後述のとおり、項目別評価でも、多くの課題を指摘した。区からの課題提起により行われている協働事業でもあるので更なる改善の取組みを期待したい。

● 項目別評価

１＝優れている　２＝適切である　３＝課題はあるがほぼ適切である
４＝不十分であり改善が必要

協働事業評価項目		評価指標
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	１・２・[3]・４
	② 事業の成果目標の設定	１・２・３・[4]
	③ 協働の相手への期待とその成果	１・２・３・[4]
	④ 役割分担の決定方法	１・２・３・[4]
実施	⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	１・２・[3]・４
	⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	１・２・３・[4]
結果	⑦ 当該事業実施における受益者（区民）の意見集約	１・２・３・[4]
	⑧ 今後の課題の把握および共有	１・２・３・[4]
反省と改善	⑨ 改善すべき内容の把握	１・２・３・[4]

・評価コメント

協働事業評価項目	評価点
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方 [3]
	街中で文化の香りが感じられることは、区民の日常生活に潤いや安らぎを与え、まちの活性化や新宿のまちへの愛着を育むことにもなる。本事業は、区からの提起に基づき、新宿フィールドミュージアムの実現にも寄与する事業として、文化芸術の鑑賞・参加・創造の場として現在活用されていない場所の潜在価値を見出し、「街角スポット」として活用し、地域活性化に繋げていこうという事業である。本年度調査に取り組まれているが、本事業における区民ニーズの把握については、調査前に何らかの仮説の検討・設定が必要だったのではないか。また、１５％のアンケート回収率は如何にも低すぎる。今後の事業実施にあたっては、より一層の区民ニーズの集約や、そのことを意識した事業計画の策定が必要である。

	②　事業の成果目標の設定　4
	公共空間を利用して、区民が文化を身近に感じられることは、地域の活性化にも十分に寄与するものであるが、区民がこうした事業を評価する判断基準は、区民生活への必要度という視点からであり、「街角スポット」を探し出し、区民や文化芸術団体に提供することが、区民の文化・芸術活動への参加や文化観光資源の掘り起し等につながるかという点にある。 「街角スポットの活用」という非常に成果が明確な事業であるのにも関わらず、数値目標の設定がないのは大きな課題であると考える。また、今年度の取組みとしては、アンケート調査やパイロットプログラムの試験実施であるが、事業の成果目標に関して、「街角スポット」を活用して、どのように地域の活性化や街の魅力の掘り起こしを行っていくか等を予め定かにしておいていただきたい。「街角スポット」の調査・候補地の選定で終わるものではなく、活用されることが成果目標であり、地域活性化の目標値も具体的に設定されたい。
	③　協働の相手への期待とその成果　4
	実施団体は活動実績があり、相当の成果が上げられる期待はあるものの、現実には様々な制約や課題があり、成果を上げるまでには至っていない。また、事業の実施における現在の役割分担は出来ているが、これまでのところ、団体・行政の情報系ネットワークを活用しての協働の効果が発揮されているとは言い難い。 区として課題提起した事業のわりには、区の参加・関与が弱いのではないか。区の施設を文化芸術団体に提供していることからも、この事業の実施により、どれほど区内の文化芸術団体の活動参加が高まるのかもう少し実証的工夫がされてもよいのではないか。双方の積極的かつ柔軟な対応を期待したい。
	④　役割分担の決定方法　4
	双方の持つノウハウを生かせるように、話し合いがなされ、役割分担もされているものの、アンケート調査の実施状況等、これまでの事業の取組状況から見れば、区の参加・関与も限定的であり、事業目標達成のために十分な役割を発揮しているとは言えないのではないか。今後、事業を進めていく中で、課題等が生じた場合、しっかりと意見交換を行い、互いの役割を果たしていくことを期待する。
実施	**⑤　事業の進捗状況や事業に関する情報の共有**　3
	事業の進め方や進捗状況についての意見交換は行われて、53 件のスポット候補があがったことは収穫と思えるが、アンケートの回収率や現状の達成状況からは、より頻繁な情報や状況の共有と改善が必要だと考える。アンケート調査がこの事業のどの位置を示しているのか、パイロット的に「街角スポット」をどのように活用していくのか、始めてから時間が少なく難しいのかもしれないが、この事業が目指すものや具体的な方向性を打ち出していくことを今後期待したい。

	⑥　協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い　4
	双方が持っている情報を共有し、活用することで単独では実現できない調査等を実施していると判断するが、現在の達成状況を考慮すると、より頻繁な情報・状況の共有と改善の話し合いが必要ではないか。新宿フィールドミュージアム実現の一端を担う事業として、調査の実施や活動のコーディネイトによる地域の活性化を目的として事業を進められているが、具体的な成果目標の達成に向けた意見交換を行い、残された時間に何らかの成果が見えるよう更なる努力をお願いしたい。
結果	⑦　当該事業実施における受益者（区民）の意見集約　4
	これまでの事業の中で発見された意見や課題は、概ね整理されているものの、ヒアリングを実施した段階で、聞き取り調査の結果が９件というのは気になる状況である。本事業の受益者となる区民とは誰なのか、どの層なのかなど、双方でもっと話し合いがされることを期待したい。また、魅力的な事業なので、広く知ってもらうためにも多くの区民にアンケートを実施する等、区民の期待や意見の集約、効果測定を行うことも必要ではないか。実演者・施設管理者に目を向けるとともに、受益者となる区民が文化芸術に直接触れたり、参加できる機会の創出を意識され、事業を進められたい。
	⑧　今後の課題の把握および共有　4
	これまでの取組みの中での課題の把握は出来ていると思われるものの、事業目的の具体化に向けて、どこまで議論され、煮詰められているのか十分な説明がなされなかった。 候補物件 53 件の抽出はされたとのことであるが、空きスペースとの違いを明らかにした上で、どのような状態を実現することが「街角スポット」として活用されているのかを明らかにしていく必要があると思う。本年度は調査と環境整備が主体となっているが、区民満足度を如何ように測るか、また、如何に区民の参加を促すか、予め共有した上で事業展開していくことも必要である。必ずしも、十分な調査結果が得られていない中では、受益者である区民の意見の集約等を通して、見えていなかった課題などを掘り起し、広く区民に周知を行い、区民からの提案をまとめてみてはと思う。
反省と改善	⑨　改善すべき内容の把握　4
	これまでの取組みの中での改善すべき内容の把握は出来ているものの、双方がどのように取組み、課題をクリアしていこうとしているのか、その状況が見えにくい。まだ始めてから短時間のこともあろうが、事業目的や成果目標の達成に向けて、どこまで進んでいるか自己評価ができているのであろうか。もっと双方が話し合いをして問題点の把握に努めることが必要ではないか。特に、区側の積極的な参画意識が求められる。

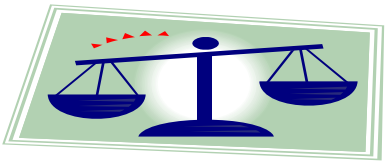
	また、新宿フィールドミュージアムの実現の一端を担う事業として、「街角スポット」の抽出と同時に、広く一般区民への周知を積極的に行う必要がある。区民のニーズと実演家のニーズのミスマッチが起きないように、また、地域の活性化に一番関心があると思われる町会や地区協議会とも話し合いの機会を持つ必要もあるのではないか。

【参考資料】

協働事業事前確認書　　P37

協働事業自己点検シート　P38

協働事業相互検証シート　P42



協働事業提案制度による＿＿＿年度実施事業　事前確認書

作成日	年　　月　　日

事業名		
実施者	団体名	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
事業目標・想定される事業成果		
事業の受益者		
協働により期待される効　果		

※実施２年目の事業のみ記入 （昨年度の協働事業評価で指摘された課題への対応も含めて記入してください。）	
１年実施して把握した課題・問題点	
２年目実施にあたっての改善点	

《協働事業自己点検シート》

記入日	記入者	記入責任者
年　　月	※どちらかをチェックしてください 団体　□　　区担当課　□	氏　名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団　体	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
実施期間	年　　月から　　年　　月まで	

※想定される事業成果や受益者について事業実施過程で変更が生じた場合は、現時点欄に記入してください。

事業目標・想定される事業の成果	

現時点⇒	

想定される事業の受益者	

現時点⇒	

※実施２年目事業で該当する場合のみ記入

事業開始時に作成した事前確認書の「２年目実施にあたっての改善点」の内容に補足が生じた場合は記入してください。

＊Ⅰ・Ⅱは、協働の取組みを５段階で評価してください。

５＝十分に達成された（80%以上）　４＝ほぼ達成された（60%～80%）
３＝課題があるものの概ね達成された（40%～60%）
２＝ほとんど達成されなかった（20%～40%）　１＝まったく達成されなかった（20%未満）

Ⅰ　協働事業の計画づくり

ここでは、団体と区担当課によって、採択された提案事業を区事業として実施するための計画づくり・仕様づくりの段階（※）での協働の取り組みを評価します。
（※実施２年目の事業については、２年目の計画を立てる段階）

①計画づくりのプロセスで双方がどのように協力して取り組みましたか。

項　目		評　価				
Q1	率直な意見交換のもとに、対等な立場で計画づくりを進めましたか。（対等）	5	4	3	2	1
Q2	お互いの自主的な発案を尊重しあって計画づくりを進めましたか。（自主性尊重）	5	4	3	2	1
Q3	お互いが役割を自覚して、自立的な事業展開ができるように、計画づくりを進めましたか。（自立化）	5	4	3	2	1
Q4	お互いの特性や立場の違いを理解して計画づくりを進めましたか。（相互理解）	5	4	3	2	1
Q5	事業目的を相互に確認し明確にして、計画づくりを進めましたか。（目的共有）	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

②協働事業の質・効果の向上に向けて、どのように計画を検討しましたか。

項　　目		評　　価				
Q6	お互いの特性を生かしつつ、地域ニーズや課題を的確にとらえた計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q7	協働で行う意義や必要性を相互で検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q8	費用に対する効果を相互に検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q9	役割分担や責任を相互に検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q10	協働で実現する目標を相互に検討・確認をした計画となりましたか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

II　協働事業の実施

ここでは、事業の実施段階での協働の取り組みについて評価してください。

①事業を進めていくプロセスで双方がどのように協力して取り組んでいますか。

項　　目		評　　価				
Q11	率直な意見交換のもとに、対等な立場で事業を進めていますか。（対等）	5	4	3	2	1
Q12	お互いの特性を発揮して、持てる力を自主的・効果的に出し合いながら事業を進めていますか。（自主性尊重）	5	4	3	2	1
Q13	お互いが役割を自覚し、過度に依存することなく事業を進めていますか。（自立化）	5	4	3	2	1
Q14	お互いの特性や立場の違いを理解して、事業を進めていますか。（相互理解）	5	4	3	2	1
Q15	事業の目的をお互いが理解し、共有しながら事業を進めていますか。（目的共有）	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

②事業の質・効果を高めるためにどのように取り組み、現段階においてどの程度の効果が生まれていますか。

項　目		評　価				
■事業の質の向上への取組みについて						
Q16	お互いの特性を発揮して、適切な解決策を見いだし、課題を解決できていますか。	5	4	3	2	1
Q17	事業の進捗状況に応じて、必要な情報を共有・活用できていますか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						
■現段階での、協働で取り組んだことによる効果について						
Q18	受益者の満足度を把握するための調査や意見聴取を行っていますか。	5	4	3	2	1
Q19	事業を通じて、現時点で受益者(※)が十分な満足を得られたと考えますか。	5	4	3	2	1
Q20	協働することにより期待した効果が得られ、現時点での事業の目的が達成できましたか。	5	4	3	2	1
Q21	事業を通じて、実施者が充実感や達成感を得られていますか。	5	4	3	2	1
Q22	事業を通じて、お互いの信頼関係が築けていますか。	5	4	3	2	1
Q23	協働したことにより、単独で事業を行うよりも、成果があがっていますか。	5	4	3	2	1
Q24	事業を通じて外部とのネットワークが広がりを見せていますか。	5	4	3	2	1
Q25	事業を通じて、地域においても、協働して地域課題に取り組む意欲が高まっていますか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

※受益者＝１枚目に記入した「事業の受益者」

《協働事業相互検証シート》

記入日		年　　月　　日	
記入者	提案団体	・団体名： ・記入責任者 氏　名： 連絡先：	
	区担当課	・部署名： ・記入責任者 氏　名： 連絡先：	・部署名： ・記入責任者 氏　名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団　　体	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
事業の受益者		

※実施２年目の事業のみ記入 （昨年度の協働事業評価で指摘された課題への対応も含めて記入してください。）	
１年実施して把握した課題・問題点	
２年目実施の改善点	

事業の計画づくり

（協働して事業計画（仕様）をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。）

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

事業実施

（協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。）

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

事業の受益者にとっての効果・影響

（協働して事業を実施した結果、事業の受益者にとっての効果・影響として、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。）

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

●自由意見

平成２４年度　新宿区協働事業評価報告書

平成２５年２月発行

印刷物作成番号
２０１２‐２２‐２６０１

編集・発行　新宿区地域文化部地域調整課管理係
東京都新宿区歌舞伎町１－４－１
電話　０３‐５２７３‐３８７２

この冊子は、森林資源の保護とリサイクルの促進のため、
古紙を利用した再生紙を使用しています。